

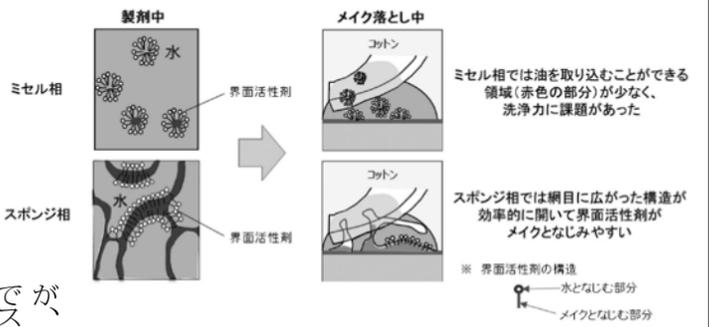
資生堂

革新的なマイクロミセル相を開発
スポンジ相を活用、メイク落とし効果とべたつかない感触を高レベルで実現

資生堂は、これまで実現が不可能であったと考えられていた「スポンジ相」(界面活性剤の特異な状態を水中で生成)をマイクロミセル相と併用し、洗浄後の使用感と洗浄力を高い次元で両立することに成功した。

近年、「ミセル相」において「スポンジ相」一般的に、水をベースとされる水をベースに活用すると、スポンジとされるメイク落としに相対する網目構造により、洗浄後のさっぱりとした肌触りが得られるが、洗浄後にさっぱりとした肌触りが得られず、高い洗浄力を発揮するおとした肌触りが得られることが可能になるという。同技術は21年6月に日本、7月に海外で発売された状態、メイク落としにおいて重要な役割を果たす油性成分をほとんど含まないため、他のクレンジング剤に比べて洗浄力に課題があった。しかしながら、水をベースとするメイク落とし製品に展開していく。

●ミセル相とスポンジ相の比較(イメージ図)



に課題があった。今回同社が注目した「スポンジ相」は界面活性剤の分子が網目状に集

合し、水を大量に含んだ会合体で、水のよりに低粘度で透明な外觀を有している。スポンジ相は界面張力が極めて小さいため、洗浄に適切な会合体であることが予想されていた。が、化粧品処方中でスポンジ相を生かせることのできる組成の範囲が極めて狭く、これまで実用化は不可能であったと考えられていた。今回同社は注目した「スポンジ相」は界面活性剤の分子が網目状に集

化粧品でケミカルリサイクルPET素材の採用を開始

花王

花王は、プラスチック循環社会の実現に向けた取り組みの一環として、化粧品のボトル容器に、ペットリファイナテクノロジー社が製造するケミカルリサイクルPET(ポリエチレンテレフタレート)素材を採用し、2021年6月より、化粧品ブランド「トワニー」のボトルを皮切りに順次導入していく。今後は、使用済み容器を回収し化粧品PETボトルへ再利用するボトル容器からボトル容器への水平リサイクル実現に向けた取り組みを進めていく。

花王は、プラスチック循環社会の実現に向けた取り組みの一環として、化粧品のボトル容器に、ペットリファイナテクノロジー社が製造するケミカルリサイクルPET(ポリエチレンテレフタレート)素材を採用し、2021年6月より、化粧品ブランド「トワニー」のボトルを皮切りに順次導入していく。今後は、使用済み容器を回収し化粧品PETボトルへ再利用するボトル容器からボトル容器への水平リサイクル実現に向けた取り組みを進めていく。



が付着した化粧品容器でも、バッキングPETと同等の品質を有するPET素材へのリサイクルが可能になるという。化粧品容器を含めた幅広い使用済みPET素材のリサイクルを進めることで、再生材の安定的な供給も期待できる。同社では今後、化粧品PETボトル容器の水平リサイクルを実現すべく、ケミカルリサイクルPET素材を使用したボトル容器の採用を順次拡大し、使用済み容器の回収、再利用についても検討を進めていく。

注力アクションを設定している。今回のケミカルリサイクルPETの活用は、重点取り組みテーマの中では「ごみゼロ」に貢献する活動で、これまでに展開しているさまざまなアプローチに加え、日本におけるプラスチック包装容器への再生プラスチックの活用を本格化することで、プラスチック循環社会の実現を目指している。

化粧品市場規模

2027年に4635億米ドルに到達

グローバルインフォメーションは、市場調査レポート「化粧品市場の成長機会・成長予測(2021-2027年)」を公開し、性別・流通経路・地域別(Accord Market Research)の販売を5月25日より開始した。

働く女性の増加、消費4635億米ドルに達する背景に拡大を続けてきた化粧品市場だが、新型コロナウイルスの感染拡大により成長にブレーキが掛かっている。こうした中、化粧品市場規模は2019年には3802億米ドル、2021年~2027年までのCAGRは5.3%を記録し、2027年には